

# かながわの 民俗芸能

第 57 号



「お峯入り」鹿枝踊り

神奈川県民俗芸能保存協会

## 目次

特集 「山北のお峯入り」	
「お峯入り」 概要	3
「山北のお峯入り」 お峯入り保存会副会長 岩本喜明	6
「伊勢神宮式年遷宮奉祝行事」に参加して 吉浜の鹿島踊り保存会 副会長 中村 衛	8
無形民俗文化財記録映画一覧表	9
会員紹介	18
ニュース・伝言板	18

### 「山北のお峯入り」概要

「山北のお峯入り」は昭和五十六年一月二十一日に国指定を受けた重要無形民俗文化財です。山北町の共和地区（旧共和村、現在の皆瀬川、都夫良野地区）に古くから伝承されてきた民俗芸能で、起源は南北朝時代、宗良親王が河村城に難を逃れてきた時から始まったと言われています。天狗・獅子・おかめなど31の役に扮した男性81人が「みそぎ」「満月の歌」「棒踊り」など11種類の歌舞を演じます。古調を帯びた歌・笛・太鼓などは、記紀、万葉の時代にさかのぼる歌垣の遺風を残すといわれ、また「修行踊り」「棒踊り」は山岳宗教や原始宗教の呪法が芸能化したものといわれています。今回の公演は、昭和五十六年度の国指定記念公演から十二年ぶりの公演になります。歌舞の所作には一片の記録もなく、すべて口伝で伝えられています。



#### ・道行き（入場）

①みそぎ  
張りボテの大きな男根を背負った女装のおかめが、派手な着物の裾をからげ、左手に鈴、右手に色幣を持っておはらいをする。このみそぎは非常に重く見られている。



⑧四節(しせつ)踊り  
 国見の所作と寿詞に続いて、殿様、若殿、お側、国見役の6人が歌と太鼓の囃子で蹴鞠(けまり)の模擬動作を行う。四季を代表する桜、柳、紅葉、松を四方に配置する。



③棒踊り「1」  
 白衣を着て、白鉢巻、白足袋、アカタスキ、赤手甲、黒脚絆(きやはん)をつけた6人が、4尺3寸(1.4m)の棒を持ち「トウバヤシ」「クラタバヤシ」「キリミガエシ」に合わせて一列で踊る。棒の動作は天を指し、地を突く。



⑨棒踊り「3」  
 3人ずつ6人が2つの輪をつくって踊る。「チラシバヤシ」に合わせ、前2回より早いテンポで棒を振る。



④鹿枝(かしえ)踊り  
 「おんこれや なに踊りこりやなに踊り かしえ踊りを おどるよ...」の歌と太鼓に合わせて、台弓、奴、万燈、先箱、弓、ほろかごなど38人で踊る。足を大きく後ろに跳ね上げる所作は、大名行列のお練りに似ている。



⑩五色(ごしき)踊り  
 男根を背負ったおかめ一人が歌と太鼓の囃子に合わせて踊る。歌は「おん赤きものあかね赤糸 赤しやぐま 朱の盃に えびのもりもの」を初めとして黄、青、白、黒と続く。



⑤棒踊り「2」  
 棒踊り「1」は一列で踊るが、今度は円形で踊る。踊りの動作は、地を突く動きが中心になっている。地元ではこの踊りを棒振りと呼んでいる。



⑥修行踊り

山伏4人の踊りで、笛はなく、歌と太鼓がつく。山伏は白衣に赤色の鈴懸(すずかけ)をつけトキン、太刀をはく。それぞれ錫杖、マサカリ、法螺貝、幣を持つ。舞踏というよりは紫燈護摩呪法に似ている。



道行き(退場)

⑪棒踊り「4」  
 6人が一つの円形になり、「チラシバヤシ」を踊る。棒踊りは幾何学的に構成された美しい踊りで、しかも日本舞踊にはめずらしい舞態といわれている。笛、太鼓に合わせてリズムカルに踊りおさめる。

# 山北のお峯入り

## 岩本喜明

山北町に伝わる国指定重要無形民俗文化財の「お峯入り」の起源は定かではない。

しかし「かなり古い時代にまでさかのぼれそうだ」と、演技者の一人として実感している。

十一の演目（四回にわたって演じられる棒踊りを一演目と数えれば八演目）の中、現在は歌と太鼓しか伝わっていない「満月の歌」と笛と太鼓の囃子だけで演じられる「歌の山」の二つは、古代歌垣の遺風であることは間違いないし、「棒踊り」と山伏の「修行踊り」は、山岳宗教や原始宗教の呪法が芸能化したものであろうことは、先学の研究によってすでに明らかにされている。

私はお峯入りの演目の中、ただひとつ寿詞のやりとりが行われる「四節踊り」に、今後着目していきたいと思っている。永田衛吉先生が「蹴鞠の歌詞の創られる以前、既に国

見・国魂の所作が存在したことが、十分に想定されるであろう。（かなりがわの民俗芸能第十号）」とされているが、更にこの踊りの成立過程について考えを進めてみたい誘惑を感じている。

### ◎ お峯入りの魅力

お峯入りの美しさと楽しさの因ってきたるところは多々あると思うが、私は、必然性も筋もない一つひとつの演目の集合体であるお峯入りのものは、十一の演目の並べ方、組み方にあるのではないかと思っている。「能と狂言」のように、厳肅なるもの、静なるものの次に、華やかで動的なものを置いていく妙である。四回出場する「棒踊り」ひとつを見てもこのような配慮を感じる。単純から複雑へ、緩慢から敏速へ、並列から円形へ、大（六人）から小（三人）へ、……と巧みに変化させ、盛

りあげる構成をなしとげたのは一体誰なのであろうか？とついつい捉われてしまうのである。お峯入りの魅力は永遠である。

### ◎ 今後調べてみたい事

一、文久三年（一八六三）より現在に至る迄の、地区毎の役割（演技者）分担の推移について

——お峯入りの文献として伝わる最も古い記録は文久三年のものである。そしてお峯入りは今回迄、十五回しか公演されていない。にもかかわらずいくつもの新たな事実がここから出てきそうに思われる。

二、道行きの行列の並びの順の変遷があるのが気がかりである。

三、昭和九年の公演（三十六年もの間公演が途絶えていた。ために伝承者はわずかに四名しか生存していなかったという）について

——三十六年目の公演復活の経緯について、当時を知る人々からぜひ聞き取り調査をしておきたい。四、昭和九年以降の公演に関する諸資料の収集・整理

——現在、残念ながらこれが出

来ていないので。

五、「市間」地区に関する諸調査

——往時は「市間」は「市場」であり、共和地区への出入り口だったと思われる。お峯入りの解明に役立つ何ものが在りそうに思われる。

以上、記録が乏しいが故にか？何かお峯入りはひとの心を捉えて離さないものを持っている。

### ◎ 公演迄三年の歳月が

大野君磨会長が「お峯入りの公演をしたいが？」と提案されたのが平成三年十二月七日。公演が平成五年十月十七日であったから、足かけ三年の準備期間を要した事になる。「どうして？」とお思いになるのは当然だが、今回の公演が実に十二年ぶりに行われたものである事と結びつけてお考え下さると有難い。

その最大の理由は「人と金」である。

共和地区は、戦後過疎化がすすみ、現在は八十八戸、三百四十七名の地区となってしまった。かつて「県下最小の村に最大の祭り（お峯入り）」が伝承されている……といわれてきたが、当時と比べて現在は一層厳し

い状況になっている。加えて若者の殆どが地区外に職を求めている。従って演技者だけで八十一名もの男子を要し、みこしや裏方をあわせると百二十名程の男子が参加しないと公演できないお峯入りが如何に大変なものかご理解願えると思う。（今回の公演では八十歳に近い方から十一歳の少年まで、又、一軒の家から親子、孫等三人の者が出家家が何軒かあった。——衣装の着つけや化粧等々は女性の応援があつてはじめて成り立つ事は言をまたない）

何はともあれ、公演まで漕ぎつける事が出来たのは、田代圭司町長はじめ町、地区を挙げての後援が頂けた事と、地区外に転出された二十名程の方が気持ちよく演技者として参加して下さったからである。誠に有難いことであった。

◎ 悩まされた十七日の天気  
公演当日の十七日は、朝になっても雨が降り続いてた。六時に共和小学校に集会した役員の見解は当然の事ながら二つにわかれた。

予報を信じ、いざとなれば雨の中でもやる、という覚悟で折衷案（開始を三十分おくらせる。神明社での

公演は中止する）を出して実施に踏みきった。なおも降りやまぬ雨が公演一時間ほど前にハタとやみ、やがて陽がさしだした時は神威を身近に感じた想いであつた。

### ◎ 感動をよんだ出来ごと

前夜、雨の中を役員が自動車のライトに助けられて校庭に砂をまいて下さったにもかかわらず、降り続いた雨の為に校庭には大小さまざまなたたまりが一面に出来てしまった。役員がこの水たまりの除去を始めると、観客の人々か我れ先に飛びだしてバケツやひしゃく、はては雑巾類迄を持ちだして手伝って下さった。そこには観客も演技者も役員もなかった。ただただ、お峯入りが無事に出来る事を願う人々の姿が見えるだけであつた。

### ◎ 困ったのは体位の向上

十二年ぶりの公演という事もあって、演技者の半分近い方（約四十名）がいれかわった。父子相伝という先人のすばらしいチエに従って新しい編成を始めた。ところが体位の向上で先祖伝来の衣装が小さくて着用できないのである。

手入れがよく、何の損傷もないのである。為に予想外の経費と時間が必要となつてしまった。思わざる誤算？のひとつであつた。

### ◎ 伝承に当つての留意点

平成三年に「お峯入り保存庫」（校倉式のユニークな建物）が完成し、今回の公演を期に衣装や用具類を一括して格納することになった。（今迄は先人のチエ（災害時を考慮）で、衣装は各人が責任を持って自宅保管する事になっていた。）

衣装はよいとして、倉庫の片隅に無雑作に積まれた用具の破損はひどかった。前回の公演後、ビデオも写真も撮つてあるから、……というところで焼却してしまつた物もあつた。ところが今回の公演に当つて大変な事に気づいた。全体の形、色彩等はわかつて、寸法や材質、特徴などがわからないのである。

人間の記憶の曖昧さ、不正確さを思い知らされた事であつた。やはり出来るだけ保存第一に心がけ、やむおえず処分する時は可能な限り詳細な記録やメモをとつておくようにする事である。現在の記録がやがて貴重な古文書になる事を忘れ

てはならない。

### ◎ 公演のネック——交通事情

十二年の間の交通事情の変化は大変なものがあつた。役員会で「公演の場所を小学校から山北高校跡地に移したら？」と提案したが大方の賛同が得られなかつた。確かに民俗芸能は発祥の地で公演される事が理想であることは間違いない。しかし裾の広い、より力強い伝承を考える時、次回迄には解決しておかなければならない最大の問題であろう。

### ◎ 先祖の真意

「お峯入りが出来てよかつた!!」「やつてよかつた!!」という言葉が反省会の席上、あちこちで聞こえた。又、棒踊りの若い方々が「来年またやりたいな!!」と言つて下さつたそのうである。

私は相乗効果の大きさを思った。一つひとつの演技の体得からグループの練習、そして全体の完成へと一人ひとりが長い間耐えて切磋琢磨して励んできたところから、自然に芽ばえた友情の絆と連帯の意識——進んでお峯入りへの思い入れ等々、共和地区にとつて本当に大きなものが残つたように思う。

私共の先祖がお峯入りを通して狙った真意はそこにあったのではな

ろうか?と想う昨今である。  
(お峯入り保存会副会長)

# 伊勢神宮式年遷宮奉祝行事に参加して

中村 衛

この度、我々吉浜素鷲神社鹿島踊保存会一同は、第六十一回目を迎える伊勢神宮式年遷宮の奉祝行事に、出演をさせていただきました。

伊勢神宮につきましては、古くより「お伊勢参り」として親しまれ、皆様周知の事と思います。

皇室の御祖神である天照大御神をお祀り申し上げ、日本人の親神として、皇室はもとより国民の篤い崇敬を集めており、また年間千数百回にも及ぶ祭典を通じ、皇室の弥栄、国家の安泰、国民の平安への深い祈りが捧げられているのです。

その伊勢神宮に於いて中でも最も重要な祭儀が、今回行なわれた式年遷宮なのであります。

年式遷宮とは、二十年に一度、御神殿、御神宝などを古例のままに造り替え、新宮に大御神のお遷りを仰

二回連続で出演させていただいた事は光栄の極みです。

さて今回の式年遷宮の遷宮奉祝祭並びに、奉祝行事は次の通りです。

「遷宮奉祝祭」「奉祝行事の奉納」「神宮舞楽の公開」「内宮旧御殿の拝観」「神宝特別展」「遷宮奉賛美術品特別展」「遷宮写真展」

以上の中で私達が参加した「奉祝行事の奉納」は、十月八日から十一月十四日まで百七十五団体によって、執り行なわれました。

我々鹿島踊保存会は十月三十一日、外宮に於いて十二時より、内宮に於いて十四時より、それぞれ二十五分間ずつ時間を頂き、二度に及ぶ出演となりました。日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、式年遷宮を彩ると共に鹿島踊りを通して神奈川県の名を高め、湯河原の宣伝にも少なからず貢献できたものと思っております。

さてその鹿島踊りですが、かつては県内で十ヶ所、静岡県でも十一ヶ所の神社で踊られていました。しかし戦後取り止めがあり、現在吉浜素鷲神社は数少ない一社となっております。

(吉浜素鷲神社鹿島踊保存会)

踊り手の人数、踊り方などは各地区によりますが、吉浜では踊り手は二十五人で白丁を着し、頭に烏帽子、腰に物忌みの白紙を挟みます。手には太鼓、鉦、黄金柄杓、日月型の呪具、幣束、扇子などを役割を決めて持ち、円形の隊列で始まり、終わりに正方形となります。踊り場の四方にはカミシモに一文字笠、手に青竹を持つ警護役が計四名立ちます。

吉浜素鷲神社鹿島踊りは、昭和四十六年に国選択、県指定の無形文化財となりましたが、今回の伊勢神宮式年遷宮に於いての舞台での出来映えは、近年稀にみる傑作であり、その名に恥じぬものと自負するものがあります。今後とも技を磨き、その技により心身を鍛え、さらには後継者の育成にも力を注ぎたいと思えます。そして二十年後の第六十二回式年遷宮に於いても、より一層の活躍を目指すものであります。

最後になりましたが、式年遷宮での大成功を支えて下さった総ての方々に、厚く御礼申し上げます。

無形民俗文化財記録映画一覧表 (I)

題名	指定	種別	色	時間	制作年度	貸出	内容	問合せ先
相模人形芝居	国	16mm VHS ベータ	白黒	36分	S.42	有	相模人形芝居は、一つの人形を3人で遣う3人遣いの様式をとっているが、大阪の文楽とは異なり、鉄砲さしという独特の操法をとる江戸系人形芝居。重要無形民俗文化財(S.55.1.28指定)の、下中座・林座・長谷座の成り立ちから、技法までを記録。	県教育委員会 文化財保護課 045-201-1111
箱根の湯立獅子舞	国	16mm VHS ベータ	カラー	24	S.43	有	諏訪信仰を奉じる人々が伝えた伊勢代神楽系の獅子舞で、湯立の神事性が高く評価され、箱根の仙石原・宮城野と静岡県御殿場市沼田にあるだけという全国的にも珍しい獅子舞。	
大山阿夫利神社の倭舞・巫女舞 附引目神事	県	16mm VHS ベータ	カラー	32	S.44	有	倭舞・巫女舞は明治初年、奈良の春日大社・富田家から伝承を許されたもので、平安王朝のおもかげを伝える優雅で荘重な古典舞踏。引目行事は歳冬1月7日0時~2時までの丑満時に大山中腹の下社拝殿で鑼矢を用いて行われる呪術的神事。	
浦賀の虎舞	県	16mm VHS ベータ	カラー	30	S.45	有	虎舞は、2頭の虎の他に「和藤内」唐人十余の「唐子」がつく全国的にも希少の民俗芸能。親子2頭の虎の逆立ちをする「一本杉」や、「虎返」などの散楽芸がみどころ。 チャッキキヲは、漁港三崎の花巻・仲崎両地区に保存されている歌舞で、7~13歳くらいまでの少女が、10~20人で舞踏し、中年以上の主婦達が、5~10人で歌う歌舞。名称は踊りが手に持つコキリコの打音に由来する。	
吉浜の鹿島踊	国選択	16mm VHS ベータ	カラー	25	S.46	有	ささら踊は、江戸時代から明治中期にかけて県下一円に盛行した盆踊りであったが、その後中絶し、南足柄市では、昭和29年に婦人会が中心となって復活。扇踊・手拭踊・太鼓踊・丸々踊の4種目があり、小町踊・七夕踊の系統である。ピンザラを突き小太鼓を打つ珍しい盆踊。 鹿島踊は、5行5列25人の青年男子による本格的鹿島踊で、踊り手は白丁姿、頭には平礼の烏帽子をかぶり警護は袴一文字笠をつき、円舞と方舞を組み合わせて踊る。	
鳥屋の獅子舞	県	16mm VHS ベータ	カラー	23	S.47	有	武蔵国八王子より17世紀に伝えられたはつきりした記録のある1人立ち3頭獅子舞で、獅子頭は竜頭型で重箱獅子の名があり、県下には類のない獅子舞。	
お峯入り	国	16mm VHS	カラー	40	S.48	有	県下最大規模の祭りであり、修験道の儀式が芸能化される過程を示すものとして貴重な民俗文化財であり、全住民の1割(80人の男子)	

題名	指定	種別	色	時間	制作年度	貸出	内容	問合せ先
							六所神社一ノ宮寒川神社等六神社による合祭で県下最大の広域性を持つ古式祭事。一ノ宮・二ノ宮の屋争いの盛間答、五社から遣わされた七度半の六所神の迎え・見合いの式・対面の式・裁許の式・神婚祭事の具現に驚舞等がつく。	県教育委員会 文化財保護課
国府祭	県	16mm VHS ベータ	カラー	25	S.48	有	県下随一の船祭で、貴船祭という。特殊神船の上に前後が破風造りの屋根を設け、毛槍、吹流し、花ツチなどを立て船腹に美しい幕をめぐるせた小早船2艘が權伝馬で曳航され、港内を渡御し、御旅所に着き翌日戻る。これに獅子船も付き鹿島踊も踊られる。	
真鶴の船祭	県	16mm VHS ベータ	カラー	25	S.49	有	江戸系鉄炮ざし操法をとる相模人形芝居の系譜をひもとき、原点をさぐり、文楽との操法の違い、その位置付けを解明した記録映画。	
相模人形芝居 江戸系鉄炮ざしの系譜	国	16mm VHS ベータ	カラー	22	S.53	有	鎌倉市御霊神社の祭典に、氏子達が神輿・獅子連・幟・猿田彦・獅子頭のあとに10種類の仮面をかけて行道する。面の様式が技楽・舞楽面に摸したもので、特に鼻の垂れ下がったものは全国的にも珍しい。	
面掛行列	県	16mm VHS ベータ	カラー	26	S.54	有	大太鼓1、縮太鼓3、笛1で構成され、江戸祭囃子の伝統を受け継いで、長老・中老・少年の3組に分かれて保存。特に長老達の技術が高く評価されている。江戸中期、多古の白山神社の伝来したという江戸葛西囃子の系統に属する5人囃子。	
菊名の船屋踊り 三戸のお精霊流し	県	16mm VHS ベータ	カラー	24	S.55	有	江戸時代、街頭の船売りが人寄せのために歌舞を演じたのが始まりで、地域により呼び方は様々である。手踊と段物に分けられ、手踊本位の本格的舞態を持つものとして評価される。楽天的・好色的な野趣味満々の農村芝居。 盆行事の「お精霊流し」に、5mの麦わら船を用いる行事。精霊は常世へ帰ってゆく。この行事は、小正月の行事と盆行事は同型性をもつ、という民俗の実際を示すものとしても貴重である。	
三増の獅子舞 本牧のお馬流し	県	16mm VHS ベータ	カラー	25	S.56	有	18世紀初期、諏訪神社の別当地清徳寺住職慶寛より始められた愛川町三増に伝わる1人立ち3頭獅子舞。(1人の人が1頭の獅子頭をつけて舞う形式で神奈川県は南限) 甲州街道の宿場であり、武田・	

題名	指定	種別	色	時間	制作年度	貸出	内容	問合せ先
							北条の合戦の激戦地として有名。獅子舞の加役であるパンパ面の裏に18世紀初期の刻印がある。 本牧神社に、400年前から伝わる御霊信仰の厄霊放流行事。茅で作った馬首亀体のお馬は、町内を一巡し厄霊をつけた後、船で東京湾に出て放流する。	県教育委員会 文化財保護課
根府川の鹿島踊	県		カラー	13	S.57	有	小田原市石橋あたりから静岡県東伊豆までの神社に伝わり踊る。鹿島神宮では、文政年間には絶えていた。根府川の鹿島踊りは寺山神社で行われ、踊りは吉浜の鹿島踊りと同型である。	
下九沢の獅子舞	県	16mm VHS ベータ	カラー	13	S.57	有	文政4年に伝えられた山城国石清水に発する角兵衛流に属する。三増と同型の1人立ち3頭獅子舞で、下九沢の御嶽神社に伝えられている。江戸時代からの伝統をもっていて、天狗面をかぶった阿闍、花笠をかぶったササラ、1ボリ、万灯、花傘がつく。	
茅ヶ崎海岸の浜降祭	県	16mm VHS ベータ	カラー	12	S.58	有	鶴嶺八幡宮を先頭に、寒川神社を中央にして、朝日輝く海上で30余基の神輿が、朝潮みそぎをする湘南地方随一の壮大な祭典。	
大島の獅子舞	県	16mm VHS ベータ	カラー	12	S.58	有	下九沢の獅子舞とまったく同型の角兵衛流1人立ち3頭獅子舞。両地とも、東京西多摩の元締めから伝習したものである。	
大磯町の左義長	県	16mm VHS ベータ	カラー	14	S.59	有	大磯海岸で行われる火祭りを中心とする正月行事。県下で最も大きく古様を伝えている。	
厚木大神楽	県選択	16mm VHS ベータ	カラー	13	S.59	有	もと藤沢大神楽といわれた伊勢大神楽十二組の1つ。正月から2月にかけて、大神楽長持を二輪車に乗せて厚木周辺の棚形場の畝いをしてまわる。	
川崎の沖繩舞踊	県	16mm VHS ベータ	カラー	11	S.60	有	江戸時代享保年間(1720年)に能・歌舞伎の技法を参酌して構成したといわれる独特の古典美を持つ旧尚王家の式楽。	
大磯町の七夕祭	県選択	16mm VHS ベータ	カラー	11	S.60	有	古代の素材な祓除と神送りの様式を伝える全国的にも極めて珍しい、古式豊かな七夕行事。	

題名	指定	種別	色	時間	制作年度	貸出有無	内容	問合せ先
相模人形芝居 足柄座・前鳥座	県	16mm VHS ベータ	カラー	10	S.61	有	国指定3座を除く、県指定の2座（前鳥座・足柄座）に関する記録映画。	県教育委員会 文化財保護課
善部妙蓮寺の曲題目	県	16mm VHS ベータ	カラー	13	S.61	有	長老男子たちの唱える南無妙法蓮華經の題目または題目歌に合わせたお会式に演じられる稚児たちの繰取り芸。	〔貸出〕について 市視聴覚センター 登録団体にのみ実施 045-671-3734
横浜の民俗芸能・行事 虫送り		U VHS β	カラー	14	S.60	有	港北区南山田町に伝わる虫送りの行事を紹介。豊作を願って、夏の土用に虫を追いはらうたいまつ行列の一部始終をおさめ、この行事にこめられている昔の人々の祈りを描く。	〔視聴〕について 市情報サービス コーナー 045-671-3900
横浜の民俗芸能・行事 祇園船	市	U VHS β	カラー	14	S.61	有	金沢区の富岡八幡宮に800年以上伝わる祇園舟の行事・夏の大会に続いて行われるこの特殊な神事の由来や、舟作りの準備から舟を沖に流すまでの一部始終を描く。	
横浜の民俗芸能・行事 お馬流し	県	U VHS β	カラー	14	S.62	有	中区本牧に伝わるお馬流しの行事を紹介。県の無形民俗文化財に指定されており、お馬作りの準備からお馬を沖に流すまでの一部始終を描く。	
横浜の民俗芸能・行事 湯立神楽	市	U VHS β	カラー	14	S.62	有	金沢区の瀬戸神社に伝わる湯立神楽。天王みこし巡幸祭の三日目の夜行われる湯立神楽を全曲紹介し、天王みこしを中心に湧く六浦の町内の様子を描く。	
横浜の民俗芸能・行事 粥		U VHS β	カラー	14	S.62	有	簡粥とは、港北区師岡町、熊野神社に伝わる神事で、近在でよく作られる農作物から、天候・景気を粥粒で占うもの。その準備から一部始終を描く。	
横浜の民俗芸能・行事 古民謡		U VHS β	カラー	14	S.63	有	戸塚区平戸に伝わる仕事唄、臼ひき唄を作業しながら唄う。	
横浜の民俗芸能・行事 蛇も蚊も	市	U VHS β	カラー	14	S.63	有	鶴見区生妻に伝わる折雨・折晴・豊稔・逐邪を念じて行われる行事。6月第一日曜日に行われ、茅で蛇体を作り町内を練り歩く、その一部始終を描く。	
横浜の民俗芸能・行事 木遣	市	U VHS β	カラー	14	S.63	有	古くから共同作業を行うときに仕事唄として存在していた木遣歌を紹介。今は行われていない「地形」を紹介しながら木遣歌の現在を描く。	

題名	指定	種別	色	時間	制作年度	貸出有無	内容	問合せ先
横浜の民俗芸能・行事 善部妙蓮寺の曲題目	県	U VHS β	カラー	14	H.元	有	旭区善部町妙蓮寺に330余年にわたり伝わる曲題目を紹介。10月の御会式にお題目に合わせて稚児達が演じる繰取り芸。	
横浜の民俗芸能・行事 牛込獅子舞	市	U VHS カラー	カラー	14	H.元	有	緑区牛込地区に伝わる牛込獅子舞を紹介。東日本に伝わる1人立3頭獅子舞の南限といわれ、地域で親から子へと大切に伝わっている様子を新幕古から本番まで、一部始終描く。	
横浜の民俗芸能・行事 鷲神社の祭礼		U VHS β	カラー	14	H.元	有	緑区のかつて石川村の村社であった鷲神社にいまも伝わる祭礼を紹介。保木・平川・荏子田・牛込・宮元の各地区に伝わる獅子芸能を通し地域の結びつきを描く。	
横浜の民俗芸能・行事 一沙祭		U VHS β	カラー	14	H.元	有	金沢区野島の漁民たちに江戸時代から伝えられている沙祭りとは、海で遭難した人たちを供養するお祭りです。小さな木舟を枕めて海に生きたる人々の身代わりとします。	
横浜の民俗芸能・行事 一注連引き 百万遍念仏		U VHS β	カラー	14	H.2	有	港北区新羽町の農家に伝えられているこの念仏行事は、200年前の天明の大飢饉の時に、1人の行者が霊で作った魔除けの大蛇を村の入口に巻き付けたことから始まる。	
横浜の民俗芸能・行事 火渡り		U VHS β	カラー	14	H.2	有	港北区の円応寺で10月10日に行われる火渡り行事。	
横浜の民俗芸能・行事 双盤		U VHS β	カラー	14	H.2	有	延4面、太鼓1で奏する仏教音楽。題目を唱えながら奏する曲と歌詞のある曲とを紹介。旭区三仏寺、緑区慈眼寺、真福寺、市ヶ尾地藏堂、戸塚区南念寺の双盤を収録。	
横浜の民俗芸能・行事 夏越神事		U VHS β	カラー	14	H.2	有	神奈川区能野神社、磯子区八幡神社、港北区能野神社の夏越しの行事。それぞれの神社に伝わる芽の輪の準備から当日まで。	
横浜の民俗芸能・行事 神代神楽		U VHS β	カラー	14	H.3	有	市内に伝わる神代神楽の家元・萩原社中（矢向）、横越社中（子安）が大山阿夫利神社、北方皇大神宮等で奉納されている様子を紹介。	
横浜の民俗芸能・行事 釜鳴り		U VHS β	カラー	14	H.3	有	南区堀ノ内稲荷神社で行われる釜鳴り神事。釜の鳴り方により一年の吉凶を占うという行事。	

題名	指定	種別	色	時間	制作年度	貸出	内容	問合せ先
横浜の民俗芸能・行事祭 噺子		U VHS β	カラー	14	H. 3	有	磯子区森浅間神社、神奈川区六角橋杉山神社、緑区鷺神社の祭礼に奉納される祭噺子を紹介。三つもの形の変わった行道の様子を紹介。	川崎市民ミュージアム 044-754-4500
白幡八幡大神祭の初卯祭		16mm VHS	カラー		S. 58	無	川崎市宮前区平の白幡八幡大神では、毎年3月初卯の日、弓矢での射を射て、その年の吉凶を占い、豊作を祈念する射的行事「初卯祭」が行われる。この行事は地元平の八幡講の人々によって行われ、糞の大蛇作りの光景や、ソバや白米などのお高盛りなどが記録される。川崎市の東南部にある平間寺は、川崎大師又は、厄除け大師と呼ばれるて古くから多くの人々の信仰を集めている。10年に一度、御本尊・厄除弘法大師の御開帳が、3月1日から31日までの1ヶ月間行われ、その時「赤札」と呼ばれる護符が授与される。	※貸出しはしていないが市民ミュージアムのビデオライブラリーで視聴可
川崎大師の赤札		16mm VHS	カラー		S. 58	無		
稲毛神社・山王まつり 宮座式は県選択	県選択	16mm VHS	カラー		S. 59	無	稲毛神社は、川崎市川崎区宮本町にある。ここでは8月1日から3日まで、孔雀神輿と玉神神輿を中心とした華やかな「山王まつり」が行われる。この祭では、社人による宮座式や、御神体を移しかえる儀式など全国的にも珍しくなった行事が伝えられている。川崎市多摩区にある長尾神社では、毎年1月7日に射的祭という神事が行われていたが、その際、弓、矢、神輿などが古式に則り再現される。射的祭は、矢の当たった場所や数によってその年の吉凶を占う行事である。	
長尾神社の射的祭		16mm VHS	カラー		S. 59	無	やぐらを組み、大勢の人が唄を歌いながら重い木槌を引き上げては落とし、建造物の基礎を固める。このような仕事を地形と呼んでいる。現在では見られなくなった地形の技術を、川崎市中原区の丸子の方々の御協力により記録した。	
地形と唄		16mm VHS	カラー		S. 59	無	川崎市高津区溝口にある宗隆寺では、毎年10月21日に御会式が行われる。当日は、本堂内陣の手前に直径40cm、高さ3mの「宝前」（ほうぜん）と呼ばれる蒿柱が1対立てられる。また晩には多くの「万灯」の共演が繰り広げられる。	
宗隆寺の御会式		16mm VHS	カラー		S. 60	無	川崎市中原区上丸子山王町にある、日枝神社では、1月7日にオビジャと呼ばれる射的祭が行われている。この行事は年始めに的を矢で打ち、その年の豊作を願う祝行事である。	
日枝神社のオビジャ		16mm VHS	カラー		S. 60	無	川崎市中原区の神明神社では、1月7日と8日にオビジャと呼ばれる行事が、古くから行われてきた。このオビジャは、射的を供	
中丸子のピシヤ行事 ～ソメヨリ～		16mm VHS	カラー		S. 60	無		

題名	指定	種別	色	時間	制作年度	貸出	内容	問合せ先
川崎の沖繩舞踊	県	16mm VHS	カラー		S. 60	無	大正時代。川崎市川崎区中島町の紡績工場に工具として沖縄出身者が多く移住してきた。これらの人々の間で沖縄の芸能が行われてきたが、第2次世界大戦後、「川崎沖繩芸能研究会」が結成され、今にその芸能を伝えていく。神奈川県指定無形民俗文化財。	川崎市民ミュージアム
夏の御服講		16mm VHS	カラー		S. 61	無	日蓮宗の信徒の集りである六ヶ村は川崎・横浜・町田の3市に広がっている信仰集団である。川崎では、麻生区の上麻生地域の人々が講中となっている。この講中は毎年、池上本門寺の御本尊、日蓮上人のお召物を仕立、それを奉納している。	
台和のせえの神		16mm VHS	カラー		S. 61	無	川崎市多摩区登戸にある台和地区では毎年1月14日と15日の両日、セイノカミと呼ばれる小正月の火祭行事を行っている。正月飾りと燈を集めて小屋をつくり、一晩そこに籠って翌朝それを焼くという行事を、この台和地区では青年部が中心となって守り続けている。	
子之神社のオート 音		16mm VHS	カラー		S. 61	無	川崎市多摩区の子之神社では、1月9日にオートの行事が行われている。この行事は本来、年占いの意味が込められていたが、昔ではその意味は薄れ、的の裏の鬼の文字を射抜くことによりその年の災厄をとり払い、作物の豊作と氏子の平和な生活を祈る行事となっている。	
川崎の盆行事		16mm VHS	カラー		S. 62	無	川崎市域に残る盆棚や燈籠づくり、マコモ細工、砂盛り、迎え火、送り火などの盆行事を、川崎市中原区の上丸子地区を中心に記録した。	
黒川のセエノ神		16mm VHS	カラー		S. 62	無	川崎市麻生区黒川では、1月14日に上黒川の嘉永3年(1850)銘を有する道祖神の近くでセエノ神の行事が行われている。この行事は新しい年を迎える際に火で浄め、無病息災や豊作を祈る意味があり、子供達を中心となって行う行事は貴重な伝統である。	
高石神社のヤアサメ		16mm VHS	カラー		S. 62	無	川崎市麻生区高石にある高石神社では、1月15日の年始めに矢で的を射るヤアサメという射的行事が行われている。ヤアサメは、本来馬が使用されるが高石神社の場合は歩射形式である。また、直会の席で謡曲を謡う行事は高石神社にしか残っていない。	



題名	指定	種別	色	時間	制作年度	貸出	内容	問合せ先
川崎の万作踊 —栗木の粉屋踊— —土橋の万作踊—		16mm VHS	カラー		S.62	無	万作踊とは、船売りの行人が客寄せのために歌い踊ったものである。この踊りは、南関東の農村地帯に多くみられたが、次第に廃れていった。川崎市内では、麻生区栗木と、宮前区土橋の二ヶ所のみで伝承されている。	川崎市民ミュージアム
初山の獅子舞	市	VHS	カラー		S.62	無	川崎市宮前区菅生の菅生神社では、例祭日である10月3日に初山獅子舞が舞われる。舞手は小学生の男子4人で構成され、巻獅子、剣獅子、玉獅子とへいおいが登場する。川崎市習俗技芸。	
新城の囃子曲持	市	16mm VHS	カラー		S.63	無	川崎市中原区新城に伝わる囃子曲持は、祭囃子の曲にあわせながら米俵などを自由自在にあやつる力自慢の曲芸で、若者達が力石を持ち上げ、力を競い合ったこと由来するという。かつては市内各地で行われていたが、現在では新城だけに伝えられている。川崎市重要習俗技芸。	
宮内の雨乞行事		VHS	カラー		S.61	無	川崎市中原区宮内の春日神社で昭和61年に、雨乞い行事が行われた。人々は薙で巨大なへびを流し、神に雨を祈った。この行事は、70数年ぶりに再現されたもので、貴重な記録である。	
音楽師の獅子舞	市	VHS	カラー		S.62	無	川崎市多摩区音の音楽師堂では毎年9月12日前後の日曜日に獅子舞が行われている。舞は、三頭の獅子と天狗の4人で行われるが、この4人は常に一組のもののみなされ、その中の一人でも舞えなくなると4人揃って引退し、次の代の4人に交代した。川崎市重要習俗技芸。	
小向の獅子舞	市	VHS	カラー		S.63	無	川崎市幸区小向西町の八幡大神では、毎年8月の第2日曜日に獅子舞が舞われている。前日の夜は町内を一巡する「練込み」がある。獅子舞は一人立三頭形式で、獅子に大太鼓・笛歌、それにサララを奏でる少女達が加わる。川崎市重要習俗技芸。	
土間といろり		16mm VHS	カラー		S.59	無	川崎市麻生区細山の宮田家は、明治28年(1895)に建築された茅葺民家である。宮田家の土間というりを中心に川崎の民家の間取りについて紹介する。	
千年の紺屋		16mm VHS	カラー		S.60	無	川崎市高津区千年で、江戸時代から紺屋を続けている清水染物店の藍染技術を記録にとどめた。藍草の採り入れ、藍玉つくり、型彫り、糊つくり、染め付けなどの工程が、4代目清水源助氏を中心に進行していく。	

題名	指定	種別	色	時間	制作年度	貸出	内容	問合せ先
川崎のささやま		16mm VHS	カラー		S.62	無	「ささやま」とは山に生えている木や屋敷地に生えている木を切り倒す職人のことである。ここでは、川崎市宮前区菅生で現在も「ささやま」の仕事が続いている片山利平氏を中心に、その技術を記録に残した。	川崎市民ミュージアム
早野子供会の記録		16mm VHS	カラー		S.62	無	川崎市麻生区の早野子供会の活動記録。早野子供会では、農園づくりや七夕、キャンプなど学校生活では味わえない経験を、また地域のコミュニティセンターの場としても大きな役割を果たしている。	
手作りのお茶		VHS	カラー		S.60	無	川崎市域の農家では、昔から自家製のお茶づくりが行なわれてきた。川崎市多摩区生田の松沢文吉家のお茶づくりの様子を記録した。	
民具のつくり方 —オミキグチ—		VHS	カラー		S.62	無	神に供える神酒徳利の口を飾る竹製の細工物をオミキグチという。フクジュソウ、ミツダマなどの様々な形が作られている。	
民具のつくり方 —あしたか—		VHS	カラー		S.62	無	草履の一種で形が足裏の半分程なので、半物草履とか足半と呼ばれた。足半は、鼻緒が切れにくく、足の裏に密着するので、鎌倉時代頃から戦国には必ず着用された。しかし、江戸時代になると廃れ、主に農山漁民が用い、今日に到っている。	
民具のつくり方 —ぞうり—		VHS	カラー		S.62	無	ぞうりは日本在来の履物として古くから広く用いられている。稲藁とぞうり編み台を用いた川崎市域のぞうりの作り方を民具製作技術保存会の協力で紹介する。	
民具のつくり方 —わらじ—		VHS	カラー		S.62	無	わらじもぞうりと同じく鼻緒履物の一つ。普通、わらじは足袋の上から履いたと言われ、山に放焼きに入るときなどに使用された。	
民具のつくり方 —牛・馬の沓、くつこ—		VHS	カラー		S.62	無	荷運搬の際、牛馬が滑らないように、また田仕事で田の中に馬を入れるとき、蹄鉄が田の中に落ちると危険なので履かせたもの。	
民具のつくり方 —俵—		VHS	カラー		S.62	無	稲藁などを円筒状に編んで両端を閉じた入れ物。主として米の運搬・貯蔵に用いられる。米俵のほか、炭俵や海産物の俵もあるが、ここでは米俵の編み方を紹介する。	

### 会員活動紹介

昨年度発行いたしました、「会員活動紹介冊子」に都合により掲載できなかった団体や、その後新しく会員になられた団体もいらっしやいましたのでここで紹介いたします。また、発行時原稿を提出されなかった団体につきましては、機関誌でご紹介いたしますので事務局までご連絡ください。

#### 鳥屋獅子舞保存会

①川瀬吉之助 ②昭和29年12月、県無形民俗文化財の指定を受けたときに正式に保存会として発足。現在就任の会長は4代目 ③8月10日(ただし天候の関係で順延される場合もある) ④23名 ⑤8月3日より8月9日まで(一晩おき程度行われる) ⑥〒二〇一〇二 津久井郡津久井町鳥屋三四七 川瀬吉之助 〇四二七(八五)〇二二八 ⑦県指定無形民俗文化財 諏訪神社の鍵取り寺である、天台宗清真寺十世住職「円海法印」(一六七八年没)が鳥屋の祭祀に祭事芸能のないのを寂しく思い、当時武蔵野国でおこな

れていた獅子舞を模倣してこの行事を起したものとされる。獅子頭は、円海が自ら彫ったもので、父、母、子の三頭からなる。舞態は単純素朴で、十七世紀の古格を持つ獅子舞として貴重である。

#### 相模原市民俗芸能保存協会

①田所 文夫 ②相模原市域に伝わる民俗芸能の保存と後継者の育成を目的とし、民俗芸能大会の開催(市教育委員会主催)、各種公共事業への出演協力、機関誌の発行などを行っている ③民俗芸能大会および各地域の祭礼などのときに公開 ④七団体(およそ三百人) ⑤各団体ごとそれぞれ不定期 ⑥事務局〒二二九 相模原市中央二一十一―十五 市教育委員会社会教育課内 〇四二七(五四)一一一一 ⑦民俗芸能大会は、他県の団体との合同公演や特別な芸能の特集など、その企画や舞台構成の重点をおき好評を得ている。

#### 大谷芸能保存会

①尾山 永吉 ②古くから地元伝わる農村歌謡舞を中心にして祭りばやし、舞踏と、三部門を併合し共に後

が行われた。新役員は次のとおり。  
◆会長 後藤 淑 ◆副会長 岸 忠義、石井一躬 ◆常任理事 柳田直継 西山義之 ◆理事 秋本竹松、石井静江、城所恵子、実方増子、関 弥一、田邊 進、平田寅吉、松本雅憲、目黒修一、山口寛造 ◆監事 沼田貞芳、前場芳雄

#### 第17回相模ささら踊り大会

期日 平成5年7月24日(土)  
会場 藤沢市秋葉台文化体育館  
概要 葛原祭りばやし保存会の太鼓により賑やかに始められた。愛甲・遠藤・綾瀬・秦野・海老名・長谷・南足柄・葛原の8保存会の踊りが披露された。最後に神奈川おどりを参加者全員で踊り交流を深めた。

#### 「山北のお峯入り」見学会

期日 平成5年10月17日(日)  
場所 山北町立共和小学校校庭  
概要 前夜からの激しい雨のため実施が危ぶまれたが、関係者の必死の御努力により約30分遅れの開催となった。また、雨のため神明社までのお練りも中止となり、校

庭のみの演技となったが、12年ぶりに行われた壮大な歌舞に観客は、南北朝時代に引き戻されたかのように感じた。

#### 第21回相模人形芝居大会

期日 平成5年10月24日(日)  
場所 厚木市文化会館小ホール  
概要 5座が一堂に会して、日頃の練習の成果を発表した。各座員の熱演に観客から暖かい拍手が送られた。

演目は次のとおり  
傾成阿波の鳴門、巡礼唄之段、(足柄座)・絵本太功記十段目、(前鳥座)・絵本尼ヶ崎之段上、(前鳥座)・絵本太功記十段目、(前鳥座)・絵本(下中座)・御所桜堀川夜討、弁慶上使之段、(長谷座)・伽羅先代萩、政岡忠義之段、(林座)

#### 全国民俗芸能大会見学会

期日 平成5年11月20日(土)  
場所 (財)日本青年館  
概要 文化庁の企画で毎年行われており、今年で43回を数える。今年のは、日本の神楽と御田・風流」と題して行われた。開

継者の育成、会員相互の親睦を計り郷土に伝わる大切な無形文化財の保存を目的としています ③市の無形文化財に指定されている関係で一年おきに、市の文化祭に出演する。また、神社の祭典・敬老会等にも出演する。平成4年度は、四回出演して盛況でした。④歌舞伎部十八名、祭りばやし部二十名、舞踊部十四名計五十二名 ⑤一ヶ月から二ヶ月くらい前からそれぞれ適度に練習をする ⑥海老名市大谷三二五九 〇四六二(三一)六五一八

説明文の見方  
保存会名 ①代表者②保存会の概要③公開日④会員数⑤練習日⑥連絡先⑦その他

### ニュース・伝言板

#### 新規会員募集

民俗芸能を実際に行っている人、また民俗芸能に興味をお持ちの人等協会では、多くの方々の入会をお待ちしております。会員の皆様も勧誘

演前に解説書を配布し、自由見学方式で行った。  
演目は次のとおり。  
花園の御田舞(和歌山県)、奥山行山流内ノ目鹿踊り(岩手県)、青梅の愚僧踊り・浮島踊り(東京都)、石徹白の民謡と盆踊り(岐阜県)、諸塚神楽(宮崎県)  
茅ヶ崎の郷土芸能

市内の郷土芸能をまとめて報告します。市内には幾つかの芸能があり次のものが無形民俗文化財に指定されています。まず県指定では寒川神社の浜降祭(七月十五日早朝)があります。市指定ではエンコロ節、円蔵・芹沢の祭囃子、芹沢の焼米つき唄、南湖の麦打唄があります。後継者もお練り、練習もおこなわれています。また、地域の文化祭にも出演し人気を博しています。個々の芸能鑑賞はもちろんです。毎年市芸能大会が行われていますのでこちらを御覧になれば最もよいと存じます。詳しくは市役所社会教育課内にお尋ねください。〇四六七(八二)一一一一

に御協力ください。なお、協会の事業として、各種芸能見学会、講演と映画の会、会報の発行等を予定しております。入会ご希望の方は、氏名、住所、職業、電話番号を明記の上事務局にお申し込みください。なお、会費は年額一口千五百円、団体三千円となっております。

#### 会費の納入について

当協会の事業の円滑な運営のためには、会員の皆様の会費納入についての御協力がぜひとも必要です。会費は原則として、各年度五月末日までに納入することになっておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 協会行事報告

#### 平成5年度理事会及び総会の開催

平成5年6月4日(金)、ワークピア横浜 さくら及びみやまゆりにおいて本年度理事会及び総会が開催され、4年度事業報告・決算報告が承認された。併せて5年度事業計画案、予算案が可決された。総会終了後、記録映画「山北のお峯入り」が上映された。また、今年度は役員の改選

#### 編集後期

本号は、12年ぶりに行われた「お峯入り」の特集をお送りいたします。また、各市町村で民俗芸能の普及・啓発を目的として作成している記録映画の一覧表を掲載いたしました。詳しいことは、各問い合わせ先にお尋ねください。

編集部では、会員の方々からの投稿をお待ちしております。日頃の活動状況、行事の報告、または情報交換の場として活用くださるなど、お気軽にお寄せください。

#### 「かながわの民俗芸能」第57号

平成6年3月31日発行  
編集 横浜市中区日本大通り33  
神奈川県教育庁生涯学習部  
文化財保護課内  
神奈川県民俗芸能保存会協会  
事務局 ☎(201) 一一一一代

発行 神奈川県民俗芸能保存協会  
印刷 株式会社 港栄印刷  
☎(333) 八八一五代